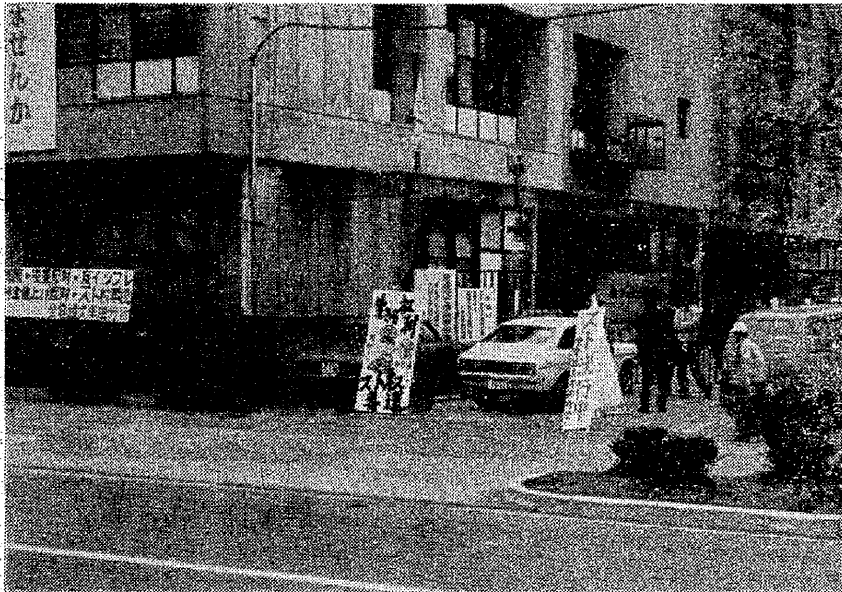


発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話 ③3033 番
③3034 番
集兼 山下 開
行人
年間1,000円 送料

写真は、全電通労働者が断固ストに突入した朝の大牟田電報電話局前のきびしいたたずまい。未来を見つめる活動家の面は、明るかった。



左の写真は、大卒田郵便局前に立てられた立て看板。そこには、全通労仲者の決意が秘められていた。



スト権奪還は歴史の流れ

炭労は支援
体制強化へ

官公労のたたかい不屈

また労働者が犠牲に
幌内炭鉱でガス爆発

十一月二十七日、北海道三笠市 長 でガス爆発発生。ここでも大 同鉱では行方不明者を救出できぬ
の北炭幌内炭鉱（大津、雄雄炭鉱 置の死傷、行方不明者を出した。
まま、坑内火災の広がり防止のため

期手配分

会社案を強行

炭労の冬季期末手当闘争は、資本の三十二万七千円の低額回答で要結を余儀なくされた。

これは要求額の四十万円からはるかに低く、職場には不満の声が渦まいている。

詳細は省略するが、ここでもスト権をすすんで会社側に売り渡した三池新労組合員ばかりでなく、三池の全労働者を資本の犠牲に供する結果をつくり出した新労組一部

こんどはその上に、会社側によって、その配分までが一方的に押
 幹部の背信行為に、労働組合が
 らさう非難の声があがっている。

苦しいが追い込みへ

年末一時金回答状況は？

【連合】年末一時金闘争は、第

官公労労働者は、不屈に、スト権の奪還をめざす大規模な闘争をつづけている。道は遠くともかかっている中心目標は、次の三項である。

- 一、スト権保障を明確にすること。
- 二、立法までの期間を、明確にする。
- 三、立法まで、すべての処分を凍結すること。

別項の、「官公労の「闘争宣言」」にあるように、スト権は本来労働者の基本的権利であるにもかかわらず、長い間政府・権力によって奪われ、しかもこんどは三大国民党政府によって、すでに昨年の春闘の際政府自ら与えた「五十生秋結論をだす」約束を、踏みにつられた。

政府はマスコミを味方に「違法スト」のラク印を押しつけ、「治安問題」として弾圧を加えるかまえさへちらつかせている。

三池労組はすでに炭労の呼びかけに応じ、古智組合長と洪田書記長が組合を代表し、官公労の大牟田現地の組織——国鉄労組大牟田支部（岡部重支部長）、金通労組筑後南支部（赤崎武支部長）、全電通大牟田分会（加藤守雄分会長）、金専売大牟田分会（道添知巳分会長）をたずね、心からの激励をおくった。

われわれはいま、戦後二十七年目にして全面一律スト禁止の屈辱の歴止に終止符をうつ正念場に立っている。

ト権を奪還し、労働者の人間としての自由と尊厳を回復するための歴史的な闘争に突入することを決定した。

しかしながら三公社当局は、より、いまや政府、自民党がいわれわれの激しい追及により、かに巻き返しをはかっても、スロト権保障の歴史の流れを奏えることは、もはや不可能になった

一九四八年（昭和二十三年）アメリカ占領政策の一環としてマツカーサー書簡、政令二〇一号により労働者の「いのち」ともいへべきストライキ権を剝奪されて以来、実に四分の二世紀以上にわたり、われわれは不当な弾圧に屈せず生活と権利、平和と民主主義を守るため、苦しく長い茨の道を闊い進んできた。

この不屈な闘いの積み上げにより、いまここにわれわれはス

七四年（昨年）春闘での五項目了解事項で、政府はスト権問

官公労の

題について「五十年秋結論を明確にわれわれに約束した。三木首相もこのことを再三国会で確認しており、今となって政府がこれをホコにすることは断じて許すことができない。（中略）

官公卿の闘争宣言

○や國際労働団体など國際世論のきびしい批判や数多くの違憲判決、および「スト権回復を支持する会」に結集した学者・文人など世論の盛り上がり、そしてスト権奪還の悲願達成のため、政府の背信行為と自民党の反動的策動を断固粉碎するため十一月二十六日以降組織の命運をかけた長期強じんの連続ストライキで闘ひ抜く決意である。